

東関東事業の“戦略的”広報活動について

常総国道事務所 工務課 石井 壮

1. はじめに

「東関東自動車道水戸線」は広く一般的に知られているものの、「東関東自動車道水戸線の延伸事業」となると、お知らせチラシの配布といった限定的な広報のみであり、事業へのご理解を得るのに限界があった。これを踏まえ、広く一般の方に周知することを目的として、デジタルフォトフレームを用いた広報活動を行ったものである。

2. 背景

東関東自動車道水戸線は、常磐自動車道三郷 JCT を起点とし、北関東自動車道茨城町 JCT までの延長 143km の高速自動車国道である。このうち、茨城県潮来市を起点に茨城県鉾田市に至る延長 30.9km の道路（潮来～鉾田区間）は、現在事業中であるが、この区間の事業広報方法については HP での掲載、お知らせチラシの配布といった局所的な広報のみであり、全域に周知を実施するのには限界があった。そのため、延伸事業についても、広く一般の方にご協力・ご理解を得ることが望ましいことから、デジタルフォトフレームを用いた周知を実施した。

3. 周知の方法

3. 1 デジタルフォトフレームの内容

デジタルフォトフレームとは、デジタル写真を印刷することなく連続して表示させることができるディスプレイである。このため、紙の掲示よりも表現の幅が広がり、事業の進捗状況等について適確な情報を瞬時にお伝えすることが出来る。また、紙の掲示で誤字等があった場合には付け替えを行う必要性があったが、すぐに変更することができるため、労働者の負担軽減や情報の伝達時間を短縮することが可能である。

今回デジタルフォトフレームを用いて周知した内容は以下のとおりである。

- ① 事業概要
- ② 工事進捗 (UAV による定点空撮) (図-1)
- ③ 地域インフラサポートプラン、取組紹介、(技術者スピリッツ、現場見学会、週休2日制チャレンジサイト)
- ④ i-ConstructionCIM 紹介 (i-Con CIM の概要、実施の取り組み事例紹介)
- ⑤ 常総国道事務所 独自取り組み (盗難防止装置 (バッテリーガード) の紹介)
- ⑥ お知らせ等。



図-1 UAVによる工事進捗写真
(スライド一部抜粋)

3. 2 周知の実施方法

延伸事業の広報において欠かせないことは、「現在の工事進捗状況」をお知らせすることであるため、工事中の空撮写真を月1回程度で随時更新し、工事前と現在を一目見てわかるように表現している。また、スライドは1周12分程度で上映している。

デジタルフォトフレームの設置箇所については現在事業中である潮来市・行方市・銚田市にご協力頂いて、各3市5庁舎の市庁舎会場入り口付近にそれぞれ設置し、フォトフレームスタンド台には東関東事業のパンフレットを設置した(図-2)。設置開始時期として、銚田市は令和2年7月中旬から、潮来市・行方市は令和2年9月初旬から順次設置した。



図-2 デジタルフォトフレーム設置状況
(潮来市)

4. 周知の結果

デジタルフォトフレームの設置により、パンフレットが各市とも設置1週間足らずで約40部がなくなり、2ヶ月目には計415部がなくなった。設置期間はわずかだが地域との一体化促進が期待できたといえる。この結果から、円滑な工事の進行やトラブルの回避につながると考えられ、開通の遅延防止として期待できる。また、建設業の魅力としての広報も担っていることから、人手不足解消の一つとしても効果が期待できる。

5. その他広報活動

東関東延伸事業の広報は、デジタルフォトフレームの他に重点「道の駅」いたこ(図-3)や行方エリアテレビへの放映も実施しており、他市から来られる方や老若男女の方々にも知ってもらうような取組を実施している。また、常総国道事務所の事業の一つである牛久土浦BP事業についても関係市にデジタルフォトフレームを設置した広報活動を行っている。



図-3 重点「道の駅」いたこ

5. 今後の取組

関係市の道路利用者についても東関東延伸事業を知ってもらうために、ダンプトラックの側面に「東関東事業延伸中」といった車両幕を取り付け、広報宣伝車としての役割も担わせられないかといった案が挙がっており、工事受注者とも協力しながらより一般の方にご協力・ご理解を得られるよう進めて参りたい。